

午後 試験

全問に共通して、記述の乱雑なものや誤字脱字が目立つもの、論述内容が理解しづらいものがあった。このような論述では、受験者の能力や経験を正しく読み取れない場合もあり得るので、是非留意してもらいたい。

問 1 (業務システムのセキュリティ対策の設計について) は、二重三重のセキュリティ対策を組み込むことによる“使い勝手や性能、コストなどへの影響”と“影響への工夫点”についての論述を期待したが、題意と異なり、適用したセキュリティ対策の論述に終始したものが多かった。また、業務システムの設計として、アプリケーションの設計における対策には言及せず、ハードウェアによる対策だけを論述したものも散見された。

問 2 (優れたユーザビリティ実現のための Web システムの設計について) は、選択率が最も高く、多くの受験者が Web システムの設計を経験していることがうかがえた。サービスとユーザの特性については、よく書けていた。しかし、ユーザインタフェースの設計における工夫では、サービスとユーザの特性に関連付けた工夫についての論述を期待したが、関連のない工夫を列挙した論述が多かった。また、クライアントやサーバで稼働するアプリケーションの設計における工夫については、具体性の不十分な論述が多かった。

問 3 (大規模システムの一部を改造した場合の全体テストの方法について) では、受験者のテスト経験が豊富であることがうかがえた。しかし、テスト環境とテスト方法の策定に関する工夫の論述は不十分で、実施したテスト内容を列挙しただけの論述が多かった。また、“連携先システムを含めた全体テスト”について論述することを期待したが、題意と異なり、“改造した部分のテスト”について論述したものが多かった。